

友を偲び、若者の活躍を祈る

鹿児島大学 衛生学・健康増進医学 堀内 正久



中学時代の親友が、胸腺がんで亡くなつてから、10年以上が経とうとしている。東京農工大学教員で、イノシシの生態学研究の第一人者であり、NHKのクローズアップ現代にも出演した学者であった。今年は、イノシシ年でもあり、イノシシが暴れているといったニュースが流れるたびに彼のことを思い出す。今年が、彼の息子さんの高校卒業の年であることは知っていたが、高校卒業後の進路は人それぞれであり、私の方から聞くことをやや控えていた。少し時間が経って、5月の連休明けに、奥様に問い合わせたところ、筑波大学に進学したことを教えてくれた。親友も奥様も、筑波大学の出身であったことから、ご両親の母校に息子さんは、進学したことになった。親友のお父様は、お孫さんの筑波大学進学をとても喜ばれたとのことであった。孫に息子の姿が重なつて昔のことを思い出されたのではと思う。奥様から、そのことをお聞きしたあと、そのお父様が、腸閉そくで、4月中旬に急逝されたことを伺った。お孫さんが筑波大学に進学したことを息子さんに報告に行かれたのではないかと、思う次第であり、今は、一緒のお墓で眠つておられる。次に上京する折には、その墓を参りたいと思っている。

彼は、1990年代、ポーランド・ウクライナ地域においてイノシシの生態観察を行つたことがあり、このことが、胸腺がん発症に影響したのではと考えている。生態観察を行つた場所は、チェルノブイリ原発事故地域からそれほど遠くはない場所であった。福島の野生のイノシシや野生化した家畜ブタの被ばく線量が、案外高いという報道がなされており、特殊ながんであったが故に、その関係性を考えてしまう。また、胸腺がんと診断される前の前年、この1年だけ、職場の健康診断を、多忙を理由に受診しなかつたことを生前、彼から聞いた。「もし」という話ではあり、また、過重被爆の問題もあり、一概に言えないが、「縦郭腫瘍」であったことから、早期に発見されていればと、予防医学に身を置くものとして悲しい思いもある。

この4月に、鹿児島大学医学部にも、新しい若者が入学してきた。担当する新入生と一緒に、しゃぶしゃぶ食べ放題を行つたが、その食べ振りには、驚かされた。前途洋洋の若者の未来が、より光り輝くように、一教員の立場で支援ができればと考えている。